

突撃！リスクマネージャー！！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー！

No16. 芳野病院 リスクマネージャー 徳島 光一様

■病院概要

1913年の開業以来97年、「医療・介護通じた地域社会への貢献」を理念とし、地域に密着した医療活動を展開。回復期・亜急性期を含む一般病床116床と療養病床45床の計161床。

日本医療機能評価機構認定病院(ver.6)



■理念

理念に基づき以下の様な病院づくりを目指します。

1. 医療、介護を通じて地域の求める安心を提供できる病院。
2. 相手の立場に立った温かみにある病院。
3. 職員一人一人が幸せでやりがいのある病院。

芳野病院にて、院内の医療安全活動を進めていらっしゃる、徳島 光一様にお話を伺ってきました。



ー医療安全管理者の役割とは何でしょうか？

芳野病院では病棟ごとに医療安全管理者を配置し、そのメンバーで医療安全管理委員会を組織しています。

病棟から事故事例をインシデント・アクシデントに分けて報告してもらい、それを各部署単位で分析し、対策を考え、医療安全管理委員会で検討を行っています。立案された対策とその後の経過に関しても追跡調査を行うことで、活かした対策が行えるようになっています。医療安全管理者の役割は、各単位ごとの事故を未然に防止するという意味でも、以下の責務が役割といえます。

- 1.各部門の医療安全の業務に関する企画立案及び評価を行う。
- 2.定期的に部内を巡回し、医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保の為に必要な業務改善等の具体的な対策を推進する。
- 3.部内における職員への支援を行う。
- 4.医療安全対策の体制確保のための他部門との調整を行う。
- 5.相談窓口等の担当者と密接な連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる。

ーインシデント、アクシデント事例の管理・区分方法はどのようにされていますか？

インシデント・アクシデントとも事例報告をレポートでしてもらい管理しています。区分には独自にリスクグレードを設け、一定以上をアクシデントとしています。(本来必要でなかった治療・処置・費用・対応が必要になった場合)

レポート提出に対して、スタッフはとても協力的ですね。現在では報告文化も定着し、かなりの数のレポートが提出されます。提出数においては病床数の半数の提出が望ましいかと考えます。スタッフからは、病棟のシステムの改善についても現場に則した積極的な意見をよくもらいますよ。

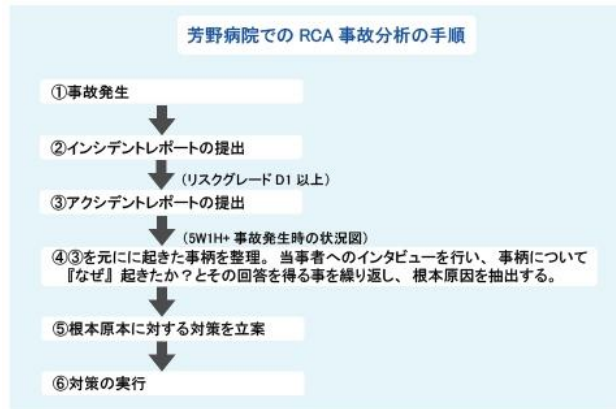
[芳野病院様アクシデントレポートはこちらから](#)

―事故分析と対策はどのような方法をとっていますか？

RCA 分析を用いて事故事例の分析と対策を行っています。

RCA 分析とは？

Root cause analysisの略で別名なぜなぜ分析。
問題解決の中の1つの部類に属し問題の根本的な原因を明らかにすることを狙いとする。
根本原因として考えられる事柄全てについて、質問と回答を繰り返し最終的に得た回答を根本原因とし、それに対する対策を導き出す手法。



―過去・現在の転倒・転落事故対策はいかがでしたか？

過去には転倒リスクがある方に対し行動抑制を行う事で対応してきました。現在は離床センサーを使用し、行動を未然に察知し対応する事がメインの対策です。行動に制限を設けるのではなく、行動したい時を知り、それを見守る・付き添うというスタンスで対応しています。

―離床センサー導入のきっかけは何だったのでしょうか？

それまでの対策で有効な物が無かったのがセンサー導入のきっかけですね。事故件数が一向に減らないので、平成 18 年に初めて導入しました。色んなメーカーを試した結果、テクノスジャパンのコードレスシリーズを採用しました。決め手になったのは、安全性と設置・使用の簡便性ですね。故障が少ないのも採用のポイントです。

―センサー導入前、導入後の事故発生件数はいかがですか？

導入前の平成 17 年の発生件数は 47 件でしたが、平成 18 年の離床センサー導入を境に、スタッフが運用に慣れた平成 19 年は 17 件と激減しました。メーカーから提供してもらった資料を活用して、独自の運用マニュアルを作成した事で効果的な運用が出来る様になりました。他にも要因はあるかもしれませんが、転倒事故防止において離床センサーの導入は、かなり有効な手段であると考えています。今年は 10 月の段階ですが、8 件と 1 桁で推移しています。

回復期病棟における転倒・転落事故件数の推移

年度	事故件数(D1 以上)	備考
平成17年	47件	
平成18年	45件	離床センサー導入
平成19年	17件	
平成20年	18件	
平成21年	17件	
平成22年	8件	10月末まで

―センサー導入率が非常に高いですが、コールへの対応が大変だとスタッフからの反発はありませんか？

現在、161 床に対して 37 台のセンサーを使っていますが、スタッフからの反発は特にありませんね。3 回に分割して導入したのでナースコールへの対応にも徐々に慣れてもらったと思いますし、コール数が増えた事に対する意見より、安心して業務が出来るという意見が聞かれます。部署によっては「もっとセンサー増やして！」という要望もあります。

—転倒・転落事故対策で最も重要な事は何でしょうか？

対象となる患者さんを十分理解する事が一番重要ですね。事故を起こす要素の一つとして、入院初期に環境に馴染めない事から精神的に不安になり、事故を起こされる方がいます。そういった場合は、不安を和らげる為の対応が重要な要素となります。

—最後に何か一言お願いいたします！

芳野病院では、開業以来「地域密着」をモットーに幅広い方に利用していただける医療サービスを提供し、地域に貢献したいと考え続けてきました。移り行く地域事情・ニーズに合わせたサービスを提供する為に、現在は一般病床に加え、回復期リハビリテーション病棟、亜急性期病棟、介護・医療療養病床という病棟編成になっています。このケアミックス型病床編成には、幅広いサービスの提供という観点からも 地域に貢献する上で必要不可欠の編成であると考えています。さらにはグループ内に『芳野ケアサポート』・住宅型有老の『うみかぜ』・グループホーム『わかくさ』という地域に密着したサービス提供も行っています。今後も地域への貢献を第一に考え、医療から介護までの幅広い サービスを提供できる体制作りに努めていきたいと思っています。